

地上型3Dレーザスキャナ（OWL）の 現地検討会を開催しました

置賜森林管理署

令和5年11月9日、小国町大字黒沢外5字大沢外6国有林内の間伐予定箇所において、スマート林業・林業イノベーションの推進に向けたICT技術の活用の一環である3Dレーザスキャナ（森林3次元計測システム「OWL」）の効率的な活用法について現地検討会を開催しました。

この検討会は、県、市町村の林業行政担当者及び林業事業体に対してレーザ計測機器の活用による最新の技術を共有し、意見交換を行うことで新たな知見を得ることを目的に実施され、6団体19名が参集の下開催されました。

初めに機器の取り扱い説明や調査方法等について説明した後間伐予定箇所に移動し、実際に標準地のレーザ計測、計測データ解析を行いました。



参加者からは「下層植生の多い場所での刈払いが大変」「補正のために人力での調査が必要になる」「機器が高価すぎて導入できない」等の問題点が出された反面、「計測結果をすぐに確認でき、その場で修正ができ便利」「林内情報だけでなく地形データ等が取得できるので、いろんな活用方法がありそうだ」「立木位置図や3次元マップに慣れれば作業が効率的にできる」といった前向きな意見もあり、有意義な検討会となりました。



OWLを使った森林資源調査は、すべての条件下で導入できるわけではないので、今後も引き続き実用化に向けた試験的な調査を行い、関係機関等と情報を共有しながら、より効率的な活用法や可能性について検証していきたいと思います。